



## 認知症でのひとり暮らしを実現 地域医療を支える薬剤師

北区にあるゆう薬局の管理薬剤師Nさんはドラッグストアに5年勤務後、3年前にゆう薬局に入社しました。以前の職場は窓口対応、薬の分量を確認する鑑査など、1つの部署のみを担当する完全分業制。ゆう薬局に転職して、窓口から薬を処方するまで、薬剤師が患者さん一人ひとりに接する丁寧さに驚いたそうです。

転職後に担当したのは認知症で血圧も高い、在宅療養中の80代の南さん（仮）。Nさんは最初、ひとり暮らしの南さんに、長女（東京在住）が同居しないのが不思議でした。

「徘徊もある認知症の南さんが、家族と住まないで、生活が大変だろうと思いました」。案の定、南さんはカッとなりやすく、処方薬も捨てたり、隠したり。Nさんはその度、捨てられた薬を探し回り、南さんが納得できるように薬の説明を続けました。「患者さんがカッとなるのは認知症のため。家族ではなく、薬剤師だからわかることがある。悪化させないよう人格を尊重して寄り添おう」。Nさんはプロとして、自分の役割を再認識

したのです。

Nさんは、南さんをサポートする訪問看護師とヘルパーにも協力を求め、訪問日の服薬補助を頼みました。またヘルパーからは南さんの血尿について相談され、Nさんから医師の指示を仰いで協力をしました。

それから3年。南さんは当初見られた徘徊行動も減り、穏やかな日常を送っています。南さんは、訪問したNさんにジュースを出すことも。ヘルパーによると、Nさんが訪問日の南さんはニコニコ顔、いつもは嫌がるお風呂も機嫌よく入ってくれるそう。南さんとの信頼関係を築いたNさんは地域医療の大切さがわかった、と振り返ります。

「いつも患者さんを見守る薬剤師の意見は医師が取り入れてくれます。訪問看護師とヘルパーと情報を共有できるのも強みです。チーム医療はプロ同士なので対応が早く的確。家族以上の支援ができる可能性がある」と、いまでは実感しています。

Nさんが築いた信頼関係、それが安心の地域医療を支える礎なのです。



### 豆知識

#### 認知症と薬局・薬剤師 part.3

家族や身近な人へ不信や攻撃が向かないよう、ケアチームが必要なタイミングで連携して支援することが重要とされています。

ゆう薬局グループ本部・宇野薬局

☎075-771-1690(本部)

📍京都市左京区浄土寺下馬場町106

🚶🏻‍♂️よりバス停は「錦林車庫前」